令和4年1月7日 発行

第53回
全国公立小中学校事務研究大会

いろどり 彩り 埼玉大会

速報 Vol.1

大会テーマ：子どもの未来を創造する地域協働

彩の国から全国へ
そして全国から彩の国へ
離れていても心一つに・・・

キャッチフレーズ

さい 彩の国　い ま 今こそ　た す 助けあい　ま な 学びあおう

全国公立小中学校事務研究大会
埼玉大会実行委員長　飯島 由美子

第53回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）を開催できますことに、実行委員一同、深く感謝申し上げます。そして大会への御参加を心から歓迎いたします。

◆ **初のオンライン開催！**

今回の大会は、初めてのオンライン開催となりました。埼玉の地に全国の皆様をお迎えすることが叶わず残念ではありますが、「新しい形」での開催に向け、気持ちを切り替えて準備を進めてきたところです。

◆ **新しい形での分科会にチャレンジ**

本大会では、分科会の充実を一つの目標としました。今回分科会を担当してくださる山形支部・栃木支部・群馬支部・千葉支部・山梨支部・埼玉支部、そして全事研本部の御協力により、会員の皆様に全ての分科会を提供できることになりました。動画での提案、Webを活用しての質問・意見の集約、ライブ配信での研究討議など、これまでにない形での分科会になります。分科会担当支部、全事研本部、そして実行委員会がスクラムを組み初めての試みにチャレンジします。参加者の皆様も、この新たなチャレンジにお力をお貸しくださいますよう、よろしくお願いいたします。動画を御覧になっての質問・意見、研究討議での意見交換など、積極的な御参加をお待ちしています。

◆ **埼玉発オンライン版全国大会！**

本大会では分科会以外にも、通常の全国大会と同じようなコンテンツを用意しています。開会式、オリエンテーション、文部科学省行政説明、全事研本部が行う全体研究会Ⅰ（本部研究提案）・全体研究会Ⅱ（シンポジウム）、全事研コーナー、愛媛大会PR、閉会式など、大会専用ページに順次掲載していく予定です。これら一つ一つも、工夫して創り上げたものとなっていますので、多くの方に御視聴いただけますと幸いです。

◆ **こんな時代だからこそ、つながりを大切に…**

Webを活用したオンライン開催の良さは、コロナ禍で集まることができなくても、全国の事務職員とつながることができることです。離れていても、心は一つに。

速報タイトル『いろどり』に込めた想い…

「いろどり」、多くの皆様がこの言葉から、沢山の色や要素がそれぞれ煌き、風景や物語に華やかさを与えているさまを思い浮かべていただけるのではないでしょうか。

埼玉大会速報のタイトルを「いろどり」としたのも、この言葉の持つそういったイメージを紙面作成の理想としたかったからです。速報として、埼玉大会の様々な行事を迅速かつ分かりやすくお伝えすることで、皆様に参加の実感および高揚感を与えられるような、さらには得られた学びや気づきを振り返る一助となり、皆様の御活躍に花を添えられるような、そのような紙面としたい、との願いを込めました。

また、「いろどり」は「彩り」とも書かれます。大会ロゴマークにもあります「彩」の文字は、実は埼玉県にとって馴染み深い漢字です。これは平成4年11月14日、埼玉に対する親しみや愛着を高めるため、県の愛称として「彩の国（さいのくに）」が選定されたことに由来します。このこともあり、本速報「いろどり」では埼玉県を表す「彩」とあわせ、紙面を通じて埼玉県の魅力や底力についてもお伝えできればと考えております。

本大会は、およそ一か月にわたり開催します。速報の発行も長期にわたることになりますが最後までお付き合いいただけましたら幸いです。

埼玉実行

さいたまめちしき　いつも快晴！　≪埼玉が日本一①≫

平成21年から平成30年までの10年間の快晴日数を合計すると567日となり、これはなんと日本一！晴れの日が多いので、農作物の生産も盛んで、里芋やパンジー（苗）の産出額は全国１位、ネギ、小松菜、ブロッコリー、ホウレンソウ、チューリップ（切花）の産出額は全国２位となっています。（農林水産省「平成29年生産農業所得統計」より）

埼玉大会の見どころ紹介

R3年度 オンライン開催 in SAITAMA

全体研究会Ⅰ　本部提案　ZENJIKEN

全体研究会Ⅰでは研究の方向性を共有します。変化し続ける社会において、価値観の多様化や科学技術の進展などに対応し、未来を切り拓いていく子どもをはぐくむ地域協働の在り方について持続可能な協働体制の確立、政策の形成という2つの視点から考えます。地域の多様な主体が目標を共有し、当事者として特性や専門性を発揮しながら子どもの豊かな学びを協創していく上で重要となる要素と、それらを戦略的に取り入れた学校づくりによって地域づくりをも実現する事務機能を提案します。そして、その機能を生かして人と人をつなぎ、各々の想いを教育課程に結び付けて地域協働を推進する事務職員の役割や共同学校事務室の在り方について提案します。

本部研究分科会　研究討議　ZENJIKEN

社会の変化により地域の担い手不足やコミュニティの衰退が懸念されるなか、学校・家庭・地域が想いを共有するだけでなく、協働の在り方を考える必要があります。各主体が子どもの学びへかかわることを通してそれぞれの自己実現や目標達成を追求することのできる体制づくりが、教育効果の向上や教育活動の継続につながると考えます。そのために、教育行政職員である事務職員はどのような役割を果たしていくべきなのでしょうか。本分科会では、参加者と意見や想いを交わし、これからの子どもの学びを実現するための地域協働について考えるとともに、地域協働の組織体制を構築する事務職員・共同学校事務室の姿や力量形成について追究します。

第1分科会　山形支部　YAMAGATA

山形支部は、「未来の創り手である子どもの育ちを支援する学校事務―持続可能な、地域と学校をつなぐ人になる―」というテーマで発表を行います。

「持続可能」かつ「地域とともにある学校づくり」という観点を大切にし、2つの実践をエピソード形式で報告することにより課題を解決する方法を探ります。

属人的ではない地域協働とはどのようなことでしょうか。ライブ配信は行いませんが、研究レポートと提案動画については心を込めて作成しました。御覧いただき、一緒に考えていただければと思います。たくさんの御質問・語意見をお待ちしております。

「見てけろな～。」

第2分科会　栃木支部　TOCHIGI

とちぎは、テーマ「子どもの学びの充実を図る学校事務」、サブテーマ―「実践」から見た学校経営参画―に基づき研究発表を行います。

今回の提案、研究討議を通して目指す学校経営参画の具体化を図るとともに、学校経営ビジョンの「実現」と「策定」の2つの方向性について実践事例から分析・検証し、事務職員の「仕事」について考えます。また、学校経営が変化していくなか、これまで以上に地域との関係性が強まることを踏まえ、事務職員の参画の在り方について皆様と共に考えていきたいと思います。とちぎは学校経営参画を全事務職員が果たし、「子どもの学びの充実」を果たしたいと考えています。

第3分科会　群馬支部　GUNMA

群馬県は「地域とともにある学校」への転換に有効とされる「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働本部」の整備率が全国平均より低いため、多くの事務職員が地域とのかかわりを意識しながらも、その具体的な方法が分からず、第一歩を踏み出す困難さを感じていました。本分科会では、その第一歩を踏み出すために作成した「群馬県の学校事務職員における地域との連携・協働指標」を解説するとともに、地域との連携・協働にかかわる事務職員の業務を定着させるために行っている取組を提案します。研究討議では、「LIVE!アンケート」というツールを採用し、ライブ形式で会員の皆様と意見交換ができるようにしたいと考えています。どうぞお楽しみに！

第4分科会　千葉支部　CHIBA

千葉支部の分科会提案では、仮説の検証へ向け「戦略的な情報発信をする事務職員の姿」について、学校HPを活用し情報発信を行った事務職員の事例等を御紹介します。討議の柱Ⅰでは、地域とともにある学校づくりにおける情報マネジメントの在り方について検討をします。討議の柱2では、地域協働における事務職員、共同実施・学校間連携の役割について考えます。情報マネジメントとは新たな役割ではなく、「目的に応じた視点を持つことで仕事が変わるという、意識や行動の変化である」といった点や、地域の教育の質を向上させるための3つの目的（事務機能強化・持続可能・地域を俯瞰）に沿った事務組織の実現について、参加者の皆さんと意見交換ができればと考えています。

第5分科会　山梨支部　YAMANASHI

第Ⅰ節は標準職務表や育成指標、年齢構成や共同実施など山梨の現状と課題について分析しました。第2節では第2期グランドデザインの策定経過について詳しく述べています。ワールドカフェを行い、多くの会員が構想から参加してアイデアを盛り込みました。第3節ではこれまでに行った調査結果を分析しその結果をグラフや表により検証し、事務職員に必要な能力や企画会議への参加の実態を見ていきます。管理職対象のアンケートと事務職員対象の意識調査との比較や、学校長が事務職員に期待することも記述回答を引用して具体的に紹介しています。日常業務の中にこそあるマネジメントに繋がる大切な役割について気づきを得ていただけたら幸いです。

第6分科会　埼玉支部　SAITAMA

本分科会では、埼玉県の地域協働の現状をお伝えするとともに、総務・財務等に通じる事務職員が地域とともにある学校づくりにおいて、どのような役割を果たすことができるか、また、どのような力量・研修制度が必要となるかを提案します。研究討議では、それらについて参会者の皆様の御意見や有識者の御助言をいただきながら、考えを深めていきたいと思います。

コロナ禍を通して、多くの方が学校の変化を経験したのではないでしょうか。同様に地域と学校の関係にも今まさに変化が訪れており、これからの事務職員の役割を考える必要が生じています。オンラインではありますが、地域協働について全国の皆様とお話しできることを楽しみにしています。

さいたまめちしき　元気とキレイを支えます！　≪埼玉が日本一②≫

埼玉県は、医薬製剤出荷額が約7,572億円で全国１位です！また、化粧水の出荷額も493億円で全国１位となっています。日本の「元気」と「キレイ」は埼玉県が支えています！？（平成30年経済産業省「工業統計表（品目別統計表）より」）